



東芝・オリエンタルコンサルタンツ

EVバスの実証運行開始

「1面関連」東芝(港区) 2社は環境省の「地球温暖化対策技術開発実証研究区EV(電気自動車)バス事業」で、港区のコミュニティバス路線を活用し、実証運行記念式典を開催した。写真は、同社はオリエンタルコンサルタンツ(渋谷区)と共同で、港区のコミュニティバスを活用したバスのEV化への取り組みを進めている。2月1日からJRの田町駅と新橋駅間の「芝ルート」で商用運行を始めた。

式典で東芝社会インフラ

システム社鉄道・自動車システム事業部長の近藤弘和氏は「昨年7月から延べ5000回走行し、129回の急速充電を行ったが、問題なく走行できる」とあいさつ。オリエンタルコンサルタンツの野崎秀則社長は「多くの方に先進技術に触れていただきたい」と語った。今後2社は、電池のリユース事業や環境負荷への効果について検証していく。



電気で走る“ちいばす”始動

2月1日、港区のコミュニティバス「ちいばす」のEV(電気自動車)商用運行が始まった。3月14日まで毎日6便、田町-新橋間を走行。オリンピックの輸送インフラとしても期待が高まる。
(3面に記事)